内の工業団地へ売電する。

能代工場は中国木材の国内6カ所目の製材工場として2024年1月に稼働。製造過程で出る端材については、稼働当初から再利用を検討していた。

火入れ式には同社の関係者ら約40人が出席した。堀川保彦社長は「能代は木都であり、再生可能エネルギーの街でもある。木を植えてから活用し発電するまでのサイクルを拡大させ、地域と環境に貢献したい」と述べた。（織田雅子）

食のみやぎ応援団 仙都魚類 宮城キッチンカー協

災害時の炊き出し 支援

連携協定 物流や調理 役割分担

宮城県内の食品関連業者でつくる一般社団法人食のみやぎ応援団（仙台市）と水産卸の仙都魚類（同）、一般社団法人宮城キッチンカー協会（名取市）は11日、災害時の炊き出し支援協力に関する企業間連携協定を結んだ。食材の調達や物流、調理などの役割を分担し、被災地に温かい食事を届ける体制を構築する。

災害発生時、食のみやぎ応援団は参画企業90社に食材の提供を呼びかける。仙都魚類は水産食料品を確保し、グループ会社の東配（仙台市）の冷凍車で物流に協力。宮城キッチンカー協会は避難所で調理を担う。

提供する食材のアレルギー情報は炊き出し専用の用紙で管理する。今後は定期的な訓練や自治体との連携を進める。

仙台市若林区の産業見本市会館サンフェスタで締結式があった。応援団の遠藤伸太郎代表理事（54）は、「食の力で災害関連死を防ぎたい」と述べた。

仙都魚類の岡野力執行役員（54）は「東日本大震災時は食料があっても衛生上十分に供給できなかった。連携でより広範囲に供給できる」と期待。協会の佐藤幸弘会長（48）は「温かい食事を提供し、被災者の心をケアしたい」と語った。



3者の代表が協定書を交わした

木造建築SK 特別清算開始

福島・平田、負債13億円

木造建築工事業のSK（福島県平田村）は11日までに、福島地裁郡山支部から特別清算の開始決定を受けた。東京商工リサーチ郡山支店によると、負債額は13億3030万円。

1981年の創業後、空気が自然に循環する工法で業績を伸ばし、96年に四季工房に社名を変更。2008年12月期には約65億円の売上高を計上したが、東日本大震災の特需終息とともに減収が続いた。

24年10月に現在の社名となり、事業を新会社の四季工房に譲渡して25年12月に会社を解散。清算手続きを進めていた。

河北新報　2026（令和8）年11月12日 掲載